

かけはし

一小だより

No.23 24・3・22

卒業

校長 大村 亨 夫

3月18日卒業式が終わりました。後始末を終えた5年生が乗ったスクールバスが消え、学校はがらんとした空気に包まれています。小さくなったこだまのように耳の奥に残っているのは、卒業生が残したエール。少し寂しい午後です。

私は、式辞の中で、ひとりの青年教師の話をしました。

数年前、「両腕のない男性 正規教員に～足でつかんだ夢 3度目の正直～」という記事が新聞に載りました。写真には、足の指にチョークをはさみ、黒板に字を書いている先生の姿が写っていました。彼の名は小島裕治（当時27歳）。4歳の時に交通事故で両腕を切断して以来、足を手の代わりに生活してきた青年です。大学時代から、英語教師をめざし勉強をつづけましたが、教員採用試験には受かりませんでした。「両腕がないから採用されないのか。」と別の職につくことも考えたそうです。しかし、父親から「焦らんでもええ。」と励ましをうけ、語学力を磨き、人前で話す練習を重ねました。そして、3度目の挑戦でみごと、中学校の教員になることができましたのです。彼の言葉がとても心に残っています。

**「成功の反対は失敗ではない。
何もしないことだ。」**

私達は、成功からも失敗からも学ぶことができます。しかし、何もしないことから得るものはないと私は思っています。小島さんは、多くの失敗に負けずコツコツと努力を重ねて、夢をつかみました。できない。やれない。と考えているうちは前に進むことはできま

せん。とにかく、1歩踏み出すこと。その先に成功や、夢の実現があることを小島さんは教えてくれています。

4月から生活する中学校は、人間としての基礎をつくる場として大切な3年間になります。失敗もあるでしょう。挫折することも多いはずですが。しかし、私は、そのことに負けないで欲しい。悔しさをバネに大きく成長して欲しいと願いながら壇上から話しかけました。

さて、本年度学校便りの最終号です。松任谷由美の「卒業写真」で締めさせていただきます。松任谷由美が、まだ荒井由美だった時代、この歌が街に流れていました。私は大学の4年生。仲間達も私も長髪を切り、教員になるためにばらばらになっていきました。3月のこの時期になるとこの「卒業写真」の歌と友達を思い出します。私的な思い出で恐縮ですが歌詞を書かせてください。

♪ 悲しいことがあると 開く皮の表紙
卒業写真のあの人は 優しい目をしてる
町で見かけた時 何も言えなかった
卒業写真の面影がそのままだったから
人ごみに流されて 変わっていく私を
あなたは時々 遠くで叱って ♪

おたよりのご愛読、励ましに感謝申し上げます。それでは また。



卒業証書授与

感動あふれる卒業式

前日の降雪も止み穏やかな中で挙行了た3月18日の卒業証書授与式。凜とした空気の中、担任による呼名の後、男子16名・女子13名が立派な姿で卒業証書を手に入りました。



巣立ちの歌



在校生による全員エール



アーチでの歓送

たくましい子どもたち

6年間1日も休まず登校した児童

6年 関 海斗 渡部一馬

1年間1日も休まず登校した児童数

1学年	9人 (33%)
2学年	6人 (24%)
3学年	12人 (41%)
4学年	10人 (37%)
5学年	15人 (41%)
6学年	16人 (55%)
計	68人 (39%)

子どものがんばり

税の絵はがきコンクール

長井法人会長賞 6年 佐藤 好郁
長井法人会女性部長賞 6年 高橋 瑞穂

飯豊町おじいちゃん・おばあちゃんへの絵手紙コンテスト

優秀賞 6年 高橋 瑞穂
佳作 2年 齋藤 優月
奨励賞 2年 嶋貴 亮平
奨励賞 6年 国分ちづる

第1回JA山形おきたま絵画コンクール

金賞 6年 佐藤 好郁
銀賞 4年 國分 陸生
銅賞 3年 富永 心涼

「くらしの文集」作文コンクール

特選 2年 根岸 志帆
特選 5年 渡部あや乃
特選 6年 多田野 怜良
入選 1年 菅野 真央
入選 3年 高橋 菜菜望

今後の予定

- 3月29日 お別れ式（全員登校日）
- 4月5日 入学式の準備（5年登校日）
- 6日 新任披露式、始業式、入学式
- 9日 下校指導
- 10日 2年以上給食開始
- 13日 1年給食開始
- 18日 交通教室
- 23日 身体計測
- 24日 1年生を迎える会・給食
- 29日 授業参観日、PTA総会
学校後援会総会